

1. 評価結果概要表

作成日 2007年7月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1271200857
法人名	医療法人社団斎心会
事業所名	グループホーム偕楽園
所在地	千葉県松戸市西馬橋幸町25番地 (電話) 047-340-1300

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	8月15日

【情報提供票より】(19年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り
	7階建ての 3階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000円他	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	5名	男性	1名	女性	4名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団斎心会 馬橋クリニック
---------	-------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム偕楽園はJR常磐線馬橋駅至近、7階建てビルの3階にある。ビルには同法人の老健、通所リハ、ショートステイ、訪問看護、訪問介護、居宅介護支援事業所およびクリニックが同居しており、高齢者サービスの総合施設となっている。ホームは1ユニット6名。個々の生活リズムを大事にし、回想法、作業療法等を取り入れている。もと病棟のフロアを改装しているが、装飾の工夫により、家庭的な温かみに溢れている。設立当初から働いている職員が多く、異動がないため、入居者と深い馴染みの関係を築き上げている。少人数だからできる手厚いケアが施されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流やホームの広報、認知症の啓発が進んでいないという指摘に関しては、盆踊り等の町会行事に参加したり、近くの小学校の運動会見学などを行った。地域のボランティア受け入れなども積極的に行っている。入浴時間が固定されていた点については、入居者の希望に応じるよう改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人理事長、ホーム管理者、職員らで話し合いの上、作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	まだ1度も実施されていない。現在、町内会、小学校の校長先生、介護相談員等に参加の呼びかけをしているところである。また、松戸市では今年、3つの地域包括支援センターが設置されるため、そこがオープンしたら、声をかける予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族向けの説明文書に苦情相談窓口が明記されており、ご意見箱も設置されている。しかしながら、家族からの意見・要望はあまり出ていない現状である。かつては家族会を実施していたが、現在は休止中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会の行事参加、小学校の運動会見学のほか、市立博物館の見学、スーパーへの買い物等、さまざまな場所に出かけている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、ゆったりとした時間の中で日々の暮らしを送ることをモットーとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示されている。職員は日常的に理念に立ち返り、話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り等の町会行事に参加したり、小学校の運動会を見学したりしている。またスーパーへ買い物に出かけたり、市立博物館を見学するなど、地域に積極的に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価および外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人理事長、ホーム管理者、職員らが一体となって自己評価を行い、また外部評価で指摘された事柄に対しては、前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ一度も開催されていない。町会、小学校、家族等に参加の呼びかけをしているところである。		地域との連携をより一層深めるためにも、早期の運営推進会議開催が望まれる。今年オープン予定の地域包括支援センターにもぜひ、参加を呼びかけることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松戸市の介護相談員の受入れをしている。市の介護保険課等との連携は特に行っていない。		市の介護保険課やこれからできる地域包括支援センターと積極的に情報交換し、サービスの質向上につなげることが促される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的および個々にあわせた報告をしている	面会時に職員が家族と話したり、必要時には電話をかけたが、定期的な報告は行われていない。		ホーム便りの発行を検討しているとのことなので、入居者の暮らしぶりを定期的に家族に知らせることの実現が望まれる。休止中の家族会の再開も期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、ご意見箱なども置いているが、意見・要望はあまり出ていない現状である。家族会は現在休止している。		家族会の再開や、運営推進会議の開催等を実現し、家族が意見・要望をだす場を増やすことが必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はホーム設置当初から勤めている人がほとんどで、異動もないため、馴染みの関係が作られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の老人保健施設と合同で、認知症ケアに関する内部勉強会を行っている。外部の研修にも参加し、その情報は全職員で共有されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で情報交換することはあるが、松戸市にある他のグループホームとは特に交流を行っていない。市内のグループホーム連絡会のお知らせは貰っているが、なかなか参加できない現状である。		地域の同業者との交流の機会を作り、サービスの質向上のためのネットワーク作りをすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、ホームに何度か来てもらって、慣れてきたら入居するように、段階を踏んだ支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者とともに料理、掃除、洗濯物たたみ、シーツ交換などを行い、ともにささえあう関係作りに励んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに応じた対応を心掛けている。体調の変化や希望は、職員がこまめに声かけして確認し、入居者本人の意思に沿った生活が送れるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者および全ての職員が、入居者本人・家族の希望を聞くように務め、また日常生活での注意深い観察をしている。その結果を上下関係なく自由な意見として出し合い、介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は四半期ごとに見直され、入居者の状況変化に応じた対応を心掛けている。見直しは入居者本人・家族・その他の関係者との話し合いのもとに、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ビル内に介護老人保健施設が併設されており、年12回の行事、ボランティアによる音楽会等が、合同で数多く開催されている。併設の他サービスが多いため心強いが、グループホーム単体での柔軟な活動はあまり行っていない。		地域の要望や期待を把握し、グループホーム独自に、同法人他サービス事業所にはできない、柔軟な支援や活動を模索することも必要と思われる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人および家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者および家族から、かかりつけ医についてのヒアリングを行い、それぞれの意向に沿う態勢になっている。急変時には併設クリニックと連携する態勢もとられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・家族の希望を聞き取り、その内容を全職員で共有している。ターミナルケアは併設の介護老人保健施設で行うことになっているため、終末期になったらそちらへ移行する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねる言動には、全職員で注意が払われている。言葉使いは特に節度をもって接するよう心掛け、個人情報の漏洩にも十分に留意されている。しかしながら、案内文書等に「痴呆」という言葉が使われている。		パンフ等の「痴呆」という言葉については、前回の外部評価でも指摘されており、入居者の尊厳に係ることでもあるので、対応が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールや職員の都合を押し付けるのではなく、あくまで入居者の希望・意向・体調等を考慮して、個々にその人らしい生活を送れるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、皆で少しずつ手伝いながら食事の準備をしている。季節感のあるメニューであり、味付けの好みにも対応している。職員も同じテーブル・同じメニューで食事をし、食事介助も過度にならないよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設の介護老人保健施設の入浴設備を利用し、週2～3回の割合で、主として夕方に入浴している。これ以外の時間帯でも、入居者の希望や体調を優先して対応することが可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴や趣味を尊重している。集団生活が苦手な入居者には職員が心がけて接し、孤独にならないよう配慮されている。誕生会の開催や折り紙の共同作業など、さまざまな娯楽を用意している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の史跡・博物館の見学を行う他、学校の運動会や学芸会等の行事に参加するなど、様々な外出の機会を作っている。その時知り合った生徒がホームを訪ねることもあり、入居者の楽しみになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者および全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの入っているビルが、駅前の交通量の多い一角にあるため、入居者の安全を最優先し、暗証番号を利用した出入り管理がなされている。		安全面への配慮は十分理解できる立地だが、入居者の自由な外出の妨げにならないよう、工夫が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の介護老人保健施設と合同で定期的に火災や地震、水害等の災害に備え定期的に防災訓練を実施している。車椅子での誘導経路、避難場所も確保されている。しかしながら地域との協力体制作りには至っていない。		災害等の非常時に際し、町会・地域の消防団等との連携は重要である。しかしながら現状は地域との関わりが薄く、施設内部での自己完結的な対応に終始しているため、外部との連携強化も求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に摂取量を記録し、体調管理に留意している。水分補給についてもチェック表に記録し全職員で入居者の体調変化に留意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感溢れる装飾が壁に飾られ、ソファや椅子などがそこかしこに置かれている。畳スペースなどもあり、個々にくつろげる空間作りがなされている。室内温度や明るさなども問題は感じられなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた生活用具や写真などを持ち込み、安心かつ快適に日々過ごせるよう配慮されている。</p>		